

# 新横江ふるさとかるた 解説

|   |                     |  |
|---|---------------------|--|
| わ | わが町に 雄姿を見せる 新幹線     | 北陸新幹線の金沢から敦賀間は二〇二四年度の開業をめざしています。下新庄には三里山トンネルが掘られました。トンネルの出口を間近に見る事が出来る山からの眺めは壮麗だっと思えます。  |
| ろ | 路地端に やさしい顔の お地藏さん   | 下新庄町には町内の道端にお地藏さんが二十ヶ所ほどあり道行く人を見守っています。七月二十四日の地藏祭には十王寺の住職が一軒つつ廻られお経をあげられます。子ども達はお参りした後、お供えの菓子をもらうのを楽しみにしています。  |
| れ | 連綿と つづく鐘の音 一本山      | 證誠寺は横越町にある浄土真宗山元派の御本山です。宗祖は親鸞聖人で、越後の国に流罪となった折、山元の庄(現在の鶴江陸軍墓地跡)で説法されたのが始まりとされ、文明七年(一四七五年)第八世道性上人が、戦国大名朝倉孝景から敷地の寄進を受け、山本の庄から横越に寺基を移し堂宇を創建されました。                  |
| る | ルート標す 薬師のもとに 石道標    | 定次町の薬師堂横に道案内の石碑が二基立っています。江戸時代には定次集落から横越と下新庄が分岐する三叉路の角に「左横越本山」右栗田部」もう一基は東鶴江へ下新庄間道路の定次集落入り口に「定次へ(右定次行)」の道案内として立っていました。   |
| り | リレーにつなびき 区民総出の 体育会  | 新横江地区の体育大会で一番盛り上げるのが発着リレーです。幼稚園保育園からハトンを年代別に繋ぎ、アンカーの区長さんがゴールします。トラックを何周もするので応援席の前を選手が走ると大きな声援が飛びます。また力自慢が引合、綱引きも人気の競技です。                                       |
| ら | ランチタイム 皇太子さまも にこやかに | 平成十九年七月皇太子殿下(現在の徳川天皇陛下)が食育授業の視察の為、鶴江東小学校をご訪問され五年生の児童たちと給食を共にされました。東小学校の菜園で収穫されたジャガイモ、ほうれん草などを食料とした給食を越前漆器の食器で食され、子ども達もにこやかに談笑されました。                            |
| よ | 横越の 夏の名残りは 大お寄り     | 證誠寺は横越町にある真宗山元派の御本山です。八月二十日のお盆参りに合わせ夜にはお参りが行われていました。大きな輪になって踊る盆踊りが伝承され、境内をはじめ道路にも夜店が並び多くの人々で賑わった今は懐かしい夏の風物詩です。   |
| ゆ | ゆるるコスモス 秋を彩る 地区の花   | 平成十三年定次町の休耕田にコスモスを植栽する事から始まり「定次町コスモス祭」が開催されました。翌年には「Hanaのシンフォニー新横江」として新横江地区全体が参加するコスモス祭が行われるようになりました。今では六田川沿いにコスモスロードとして整備されコスモスが咲きほころぶ地区の名所となっています。           |
| や | やんしぎに はじける笑顔 みどり公園  | 新横江団地は昭和四十四年福井県労働者住宅協会が団地造成を行い入居が始まりました。みどり公園での「新横江団地祭り」は我が町を盛り上げようと一致団結の象徴として始まりました。今では毎年夏祭りの時にやんしぎ踊りを子どもから大人までが一つの輪になっっており、町民の楽しみの一つになっています。                 |
| も | 木琴 今はマリンバ こおろぎ社     | マリンバで有名な「こおろぎ社」は一九四九年(昭和二十四年)五郎丸町で教育用卓上木琴の製作会社として創業しました。その後、特にマリンバ等は日本をはじめとする世界中の鍵盤楽器者からも高い評価を得て沢山の演奏者が愛用しています。現在、本社・工場は越前町(旧丹生郡朝日町)へ移転しています。                  |
| め | めへのゆく 学びの面影 大樋校     | 明治二十八年横越地籍の誌巻西に「大樋(おおひ)尋常小学校」が建てられました。大樋校には、横越・五郎丸・定次・新町の子ども達も通いました。大正十三年に「一村一校制」になり現在の鶴江東小学校の所に「新横江尋常高等小学校」が設立される迄二十九年間存続しました。新横江公民館の北西の隅に大樋校跡の石碑が残っています。     |
| む | 麦畑 見渡すかぎり 黄金波       | 新横江地区では五月の末に大麦で田んぼ一面、黄金色に色づく季節が訪れます。国の減反政策に沿い新横江地区では十月頃、種を播き翌年の五月下旬から収穫をします。大麦は麦茶や麦とろの原料として、広く利用されています。  |
| み | 南に日野 北に文殊と行司ヶ岳      | 新横江地区からみると南には越前富士とも言われる日野山、北には文殊山が望めます。その間に三里山三百四十六メートルが位置しています。昔の人はまるで日野山と文殊山が相撲を取り、三里山(別名 行司ヶ岳)が行回をしているようにたとえたと例えたとされています。                                   |
| ま | マラソンの 養着点は 競技場      | 一九七九年から始まったつづきマラソンは参加者も約三千人となり、県外からの参加も多くなりました。鶴江市東公園陸上競技場からスタートし、ハーコースは河和田までを往復します。また、親子で走るファミリーコースではいっしょに手を繋いでゴールし、親子の絆を育んでいます。                              |
| ほ | 螢火が 飛んで癒しの ふるさとの川   | 新横江地区には季節になると各地で螢が飛びのを見る事が出来ます。下新庄町の谷川沿いや定次町の用水などでは源氏螢が、山沿いの田んぼでは平家螢が優雅に飛び回ります。近年は減農薬が進みしばしば姿を見えなくなった螢が戻ってきました。  |
| へ | 変身し 技を伝える めがねマラソン   | 一九八〇年に始まっためがねマラソンは「めがねをかけている人」が参加資格であり毎年七百人程の人が参加されました。鶴江市東公園陸上競技場からスタートしめがねやコスチュームに工夫を凝らした参加者は沿道で応援する人々を楽しませてくれました。(現在は中止されています)                              |
| ふ | ふるさとの 行き帰りに 鱈江インター  | 鱈江インターは横越町に位置しています。北陸自動車道から鶴江市への玄関口として多くの車が利用しています。今ではETCの利用でノンストップでの利用が出来るようになってきました。   |
| ひ | ひがしの子 元気なあいさつ こだまする | 浅水川には下新庄に二基、新町に一基のラバーダムがあります。平時には満々と水が溜められ穏やかな川面にはカモ等の水鳥が数百羽の群れをなして泳いでいるのが見られます。   |
| は | ハチさばき 華麗にひびく きずな太鼓  | 新横江公民館では平成二十五年から地区の子ども達と大人で構成している「きずな太鼓」が活動しています。地区の体育会を始めコスモス祭や文化祭などにも出演し好評を博してきました。近年では市のイベントなどへの出演など活動の幅を広げています。  |
| の | のんびりと 羽を休める カモの群れ   | 鶴江東小学校は「自己の成長をめざし、仲間ともがはる子」の育成をめざした教育を目標としています。いきいき、すすく〜とんを合い言葉に確かな学力、豊かな心健やかな体をはぐくんでいます。  |
| ね | 年代を 越えて集つ 公民館       | 新横江公民館は社会教育の場として幼児から大人、お年寄りまで多くの人に利用されています。各団体の会議や打合せ等から文化講座、学級、文化祭や合宿通学などに利用されています。   |
| ぬ | ぬし誰ぞ 三里山の 古墳群       | 三里山の東山、大丸山、小丸山には四七世紀にかけて造られた四十基程の古墳がありました。山土の採取や新幹線工事のため壊されたものもあります。現在二十三基あまりの古墳が残っており、中でも上山古墳は石室が露出しているのを全体を見ることが出来ます。  |
| に | にぎわって 味も楽しむ コスモス祭り  | 十月初旬、新横江地区では「Hanaのシンフォニーコスモス祭」が行われます。地区の花として六田川沿いと定次町の休耕田にはコスモスが植栽されます。祭には色々ないへントが行われ、各町内や団体が自慢の味のお店を出し、来場者を楽しませています。  |
| な | 七つ区の 寄り添い栄える 新横江    | 新横江地区は定次町、五郎丸町、東鶴江、新横江、横越町、新町、下新庄町の七集落があり、現在は九町内で構成されています。弥生の昔から人々が住み、江戸時代には鶴江藩、福井藩、小浜藩、幕府直轄地に分かれていました。新横江地区は交通の便が良い住みやすいところとして人口も増えています。                      |
| と | 銅鑼で 何を祈った 古代人       | 大正三年六月三里山中腹で石材採取作業のため表土を剥いでいたとき偶然発見されました。銅鑼は当時五穀豊穣を祈る祭りに使われていたと考えられています。高さ五十二センチ重さ四、一キロあり表面には幾何学模様などの装飾が施されています。銅鑼は現在、東京国立博物館蔵となっています。                         |
| て | 手を合やす 薬師如来に 願をかけ    | 定次町のお薬師さんは許佐羅江清水の付近にあった薬師堂を天保十一年(一八四一年)現在の地に移転したものです。薬師如来が祀られており四月八日の薬師祭には、甘茶沸かしを行い、地元の人々がお参りされます。   |
| つ | 劔神社 神馬が守る 鎮守の森      | 古来より神は馬に乗って降臨するといわれています。境内には昭和初期に木水奥兵衛氏が奉納された神馬の銅像が建っています。平成二十二年に木水又雄氏からの寄付を元に補修を行いました。高岡の業者からは「躍動感あふれる神馬で型を取らせて欲しい」と言わしめた程の名作です。                              |
| ち | 地域一 めがね会館 誇りあり      | めがねの産地である鶴江の象徴として昭和五十九年に十階建てのめがね会館がオープンしました。めがねショップをはじめ、めがね枠やアフセサリーを作る体験工房、めがね作りの歴史が分かる道具等の展示や説明が聞ける展示室等もあります。   |
| た | 大根と 豆腐を和える 新庄ぬた     | 新庄ぬたは千切りにして絞った大根と豆腐を酢味噌と鬼辛子で和えた郷土料理です。食材として酢たこや生の魚やネギなど各家庭ごと味付けに工夫をこらしています。鬼辛子の効いた味はお酒との相性も良く下新庄の伝承料理となっています。  |
| そ | 空ががし 無病息災 左義長の火     | 新横江地区の各町内では正月明けに左義長が行われています。葎や木、竹で大きな田舎に立てたその中に正月飾りやお札などを入れ燃やします。この火で焼いた餅を食へると無病息災でいることが出来ることと伝えられています。又、同年の娘さんが「火打ち」と呼ばれる三角の飾り物を吊し、厄払いを祈願する町内もあります。           |
| せ | 世界体操 契機にできた 定次団地    | 世界体操選手権はそれまで世界の大都市で行われていました。一九九五年に初めて鶴江のような規模の小さい地方都市で行われました。この大会の宿泊所として建てられたのが現在の定次団地のアパートでした。大会終了後は市営住宅として現在四棟が運用されています。                                     |
| す | すく出勤 分団魂 地区の華       | 新横江地区には鶴江消防第三分団があり、火事や災害時にいち早く駆けつける体制をとっています。地元の安全を守る頼りになる分団であり、日頃から火災予防の見回りや避難訓練時の指導なども行っています。  |
| し | 地藏祭り 男地藏と 女地藏       | 昔、旅の僧が村人に一杯の水を欲しいと頼みました。村人は井水が濁っていたので、遠くまで汲みに行き僧にあげました。お礼にと僧が杖で地面を突くとそこから水が湧き出で、それからは濁れることがありませんでした。感謝した村人は地藏を祀り、七月二十三日には男児と女児に分かれ地藏祭を行うようになりました。              |
| さ | 三里山 信仰あつめた 帝釈天      | 七十六年泰澄大師により帝釈天と諸仏を祀りましたが、織田信長の兵火で焼失しました。その後「雨降神社」として帝釈天を祀りました。現在は「雨降神社旧跡の碑」が残っています。  |
| こ | 古樹林で 願いをお聞きの お薬師さん  | 下新庄の古樹林の中にある薬師堂には平安時代の作といわれる二、六メートル余りの薬師如来坐像があります。戦国時代に戦火を逃れ三里山中腹から現在の所に安置されたと伝えられています。五月には「お薬師はっこ」が行われています。   |
| け | 境内で 厳かに舞う 浦安の舞      | 下新庄の劔神社境内には能舞台があります。秋祭りの時には、この舞台上で小学校六年生の女児四人により「浦安の舞」が厳かに奉納されます。静寂な境内のなかでの浦安の舞を町内の皆さんは楽しみにしています。  |
| く | 区之宝 許佐羅江清水 トミヨ住む    | 平安時代の中腹、大変な日照りがありました。神のお告を清書し七ヶ所に埋めると水が湧き出したと伝えられています。許佐羅江清水は、その舟津の七清水の一つです。川にはトミヨも生息し、農業用水等に利用されてきました。平成二十三年に市の文化財となり県の「美味しい水」にも認定され、地区の宝として環境を守る活動が続けられています。 |
| き | きんかんは やけどの薬 新庄から    | 田植えが終わった六月、昔から五郎丸町と定次町に伊勢大神楽の一行が訪れ、家々をお祝いに廻ります。午後から圓誠寺の境内でおこなわれる神楽舞を町内の子どもから大人までが楽しみにしています。  |
| か | 観測所 地震見守り 四六時中      | 新横江の地場野菜として、イチゴ、キュウリ、吉川ナス、越のルビー(トマト)等を栽培していて美味しい市場でも好評です。又、家庭菜園で作る野菜は地元の皆さんの自慢です。  |
| お | おふくろの味 天下一の 地場野菜    | 三里山にある戦時中に掘ったトンネル内に京都大学の地震計が設置してあります。以前は建物もあり人も常駐していましたが、現在建物は取り壊され無人となりました。観測データは福井高専、東京大学、京都大学に通信回線を通じ送られ地震観測をしています。   |
| え | 圓誠寺 豊作願う 大神楽        | 外用業「キンカン」で知られる製薬会社の金冠堂の創業者、故山崎栄一氏は下新庄町の出身です。「キンカン」は発売当時やけどの薬として販売されました。自分の体にお湯をかけやけどに効くか確かめたこの逸話が残っています。   |
| う | ウォーキング 心さわやか 穴田川    | 定次町から新横江二丁目、東鶴江を流れる穴田川沿いには、桜、ツツジ、アジサイ、ムフゲ、コスモスなど季節の花々が咲きます。川沿いの遊歩道は子ども達からお年寄りまで朝夕の散歩などを通じ憩いの場所となっています。   |
| い | 一生を 女子教育に 禿すみさん     | 禿すみさんは明治九年(一八七六年)五郎丸町の浄見寺に生まれしました。仏教に根ざした女子教育の重要性を感じ、父子教さんと共に「婦人仁愛会教團」後の仁愛女子高等学校を設立し、自ら道徳、国語、英語を教え、情操豊かな婦人の育成をめざし女子教育一筋の生涯を送りました。                              |
| あ | 秋空に 黄色がまぶし 銀杏並木     | 十一月中旬になるとめがね会館前から東西に約三百メートルの銀杏並木が黄金色に色づきます。歩道も落葉で黄色の絨毯(じゅうたん)のようになり道行く人々の心を和ませてくれます。   |

